

| | | | | |
|------|----------|----|-------|--------------|
| No. | 19-1-6 | 場所 | 飯田市川路 | 次世代への継承キーワード |
| 名称 | 浸水した川路農協 | | | 早期避難 / 避難行動 |
| 災害現象 | 浸水 | | | 河川 天竜川本川 |
| 補足事項 | | | | 支流 |

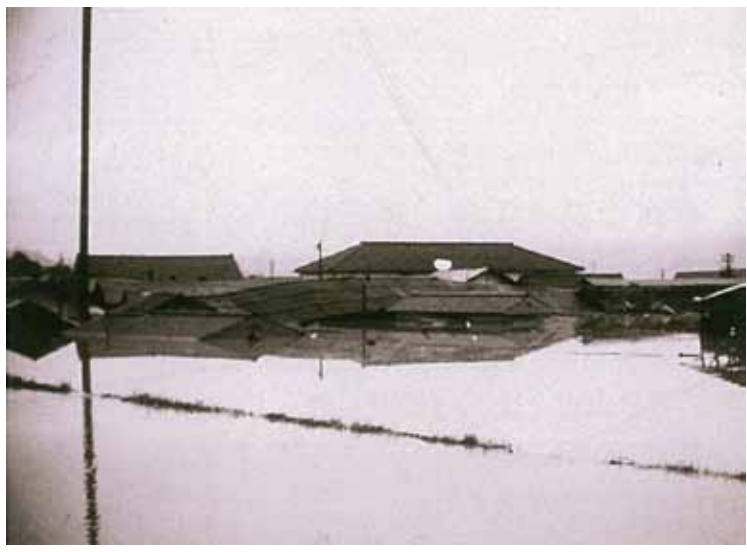
諏訪市 岡谷市 辰野町 箕輪町 南箕輪村 伊那市 高遠町 長谷村 宮田村 駒ヶ根市 飯島町 中川村 大鹿村 松川町 高森町 豊丘村 喬木村 上村 飯田市 南信濃村 清内路村 阿智村 浪合村 平谷村 下條村 阿南町 売木村 天龍村

飯田市の川路地区は、天竜川や久米川からの土砂を含んだ濁流で水没し、江戸時代の大洪水である「未の満水」さながらの状態となった。濁水は住宅の二階まで達し、全半壊、床上・床下浸水などが相次いだ。川路駅も屋根まで水没し、川路小学校は二階の窓まで水に浸かった。当時日本三大桑園といわれた広大な桑畑も消滅した。

●体験談：災害当時、飯田市川路中学校の生徒
 時間は九時頃だったろうか。危険を感じて最後に仏壇をまとめ、板の上に載せて水の上を浮かせてきて、2階へ上げておいて逃げた。首まで水のつかり寒さと恐ろしさにふるえながら…。

後から、
 「よくあれだけの物が少しの時間に上がった。」
 と、父、母はうれしさにか涙をためていた。
 あの時の増水の仕方は、三十分に四、五十センチは軽くオーバーしていただろう。
 その晩は小父さんのところで一夜をあかしたが、恐ろしさと川の音で一睡もできなかった。もう一人の兄は農協へ勤務して帰らず、一時過ぎに避難しているところへ尋ねてきて皆ホッとした。
 長い一晩が明けると、川路の半分は完全に泥沼と化していた。人々の表情はなんとも言えず、ただ自然の力の偉大さに呆然としていた
 (「濁流の子」p.66 より)

記 録



浸水した川路農協。水防関係者、消防団などの方々が活躍する中、ただ呆然と水没した我が家を眺める人、2階の屋根に家財道具を出している人など様々であった。

出典 「天竜川のあの頃」p.197/「濁流の子」p.66

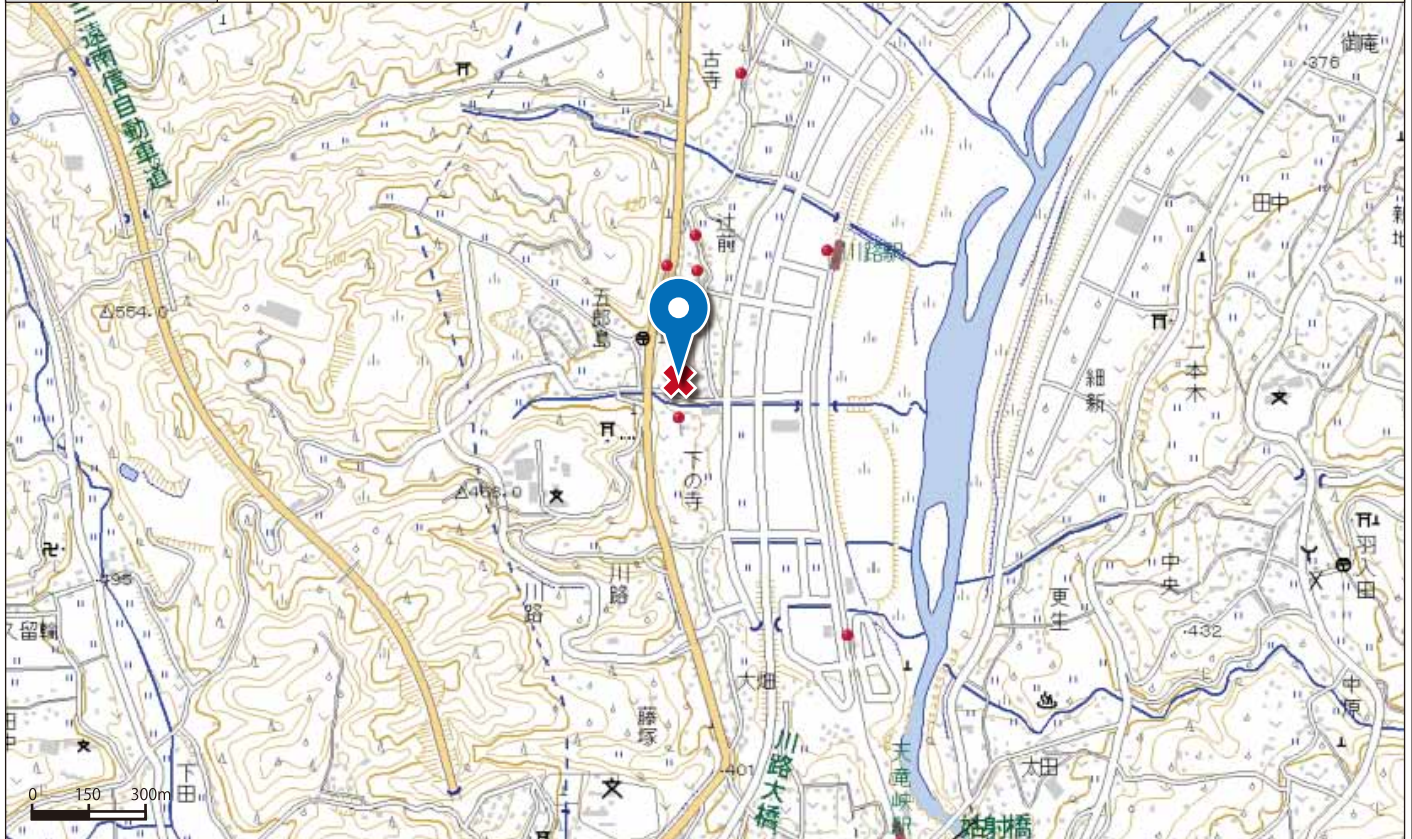
備考

| | | | | | |
|-----|----------|----|-------|----|------------|
| No. | 19-1-6 | 場所 | 飯田市川路 | 緯度 | 35.450528 |
| 名称 | 浸水した川路農協 | | | 経度 | 137.811851 |

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。